

2

次の物語を読んで、あとの問いに答えましょう。

ぼうしいっぱいのさくらんぼ

花岡 はなおか  
大学 だいがく

ひろしは朝ねぼうだ。起こしてもなかなか起きない。<sup>①</sup>  
「うん、起きるよ。」<sup>②</sup>

と言って起きない。お母さんは、\*いんきよのおじいさんに相談した。おじいさんは、  
「よし、わしにまかすとけ。」  
と言った。

③ 明くる朝、電話のベルが鳴った。ひろしは、その音で目を覚ました。じゃんじゃん鳴る。お母さんはるすらしい。<sup>A</sup>しかたなしにひろしが出た。

「もしもし、どなたですか。」  
「やあ、ひろしか。いんきよのおじいだ。おはよう。もう起きたのか。えらい、えらい。朝は早く起きるのにかぎる。きれいな朝の空気をうんとすって、ぐんぐん大きくなれよ。はい、さよなら。」  
あつという間に、電話は切れた。

「なんだ、用もないのに電話をかけてきて、いじわるじいさんめ。」  
そうは思ったが、べつにはらを立てているわけではない。それに、えらい、えらいとほめられたので、今さらねるわけにはいかない。

<sup>B</sup> まどを開けた。

さつと朝の風がふきこんできた。  
うら山の緑の葉っぱが、ちかちか光って目にしみる。  
「いいな、朝早く起きるのは……。」  
すると、まどの下で声がある。

あきおとごろうだ。あきおがごろうに言う。  
「とってもおいしそうなきくらんぼが、いっぱいになっている木を見つけてあるんだ。すぐそこのがけの上だが、いっしょに行かないか。」  
「へえ、すごいな。行こ。ひろし君もさそってやろうよ。」  
「だめだよ。あいつはねぼうだから、まだぐうぐうねてるよ。」

「じゃ、起きるまで、待ってやろうよ。」

「だめ、だめ。さくらんぼは、朝つゆに冷えているのを食べるのがいちばんおいしいのだ。ほっというて行こう。」

「そんなら行こう。」

ひろしは、あわててまどから首を出し、

「ぼくも行くよ、待ってくれ。」

とさげんだ。

「あれ、もう起きているのか。」

「あたりまえだ。ぼく、ねぼうじゃないよ。」

なるほど、これはすごい。

がけの上の大きなさくらんぼの木の葉っぱの間に、真っ赤にうれたさくらんぼがいっぱいいついている。

**C** 三人は急いで木の上によじ登り、思い思いにえだにこ

しを下ろすと、ものも言わずに取って食べた。

あきおの言うとおり、こんなおいしいのを食べたことがない。

「うまいね。」

「うん、うまい。」

それだけしかものが言えない。

あきおもごろも、おさぼるように食っている。ただ、いちばん上のえだにいるひろしだけは、さっきから食べるのをやめて、ぼうしをぬいで、その中へ取っ

ては入れ、取っては入れしている。

あきおはふしぎに思ってきた。

「ひろし君、どうして食べないで、そんなことしているの。」

「これかい。」

と、ひろしはにこにこしながら答えた。

「あんまりおいしいので、いんきよのいじわるじいさんに、持って行ってやるのさ。」

「いじわるじいさんに？」

「うん、お礼のしるしにね。」

「お礼のしるしに？」

\* いんきよ：仕事をはなれて、のんびりとくらすこと。

また、その人。

一 江戸町小学校五年生の高橋さんの学級では、「ぼうしいっぱいのおくらんぼ」という物語を読み、話し合っています。

【話し合い①】は、あらすじをまとめるために、話し合っている様子です。次の【話し合い①】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合い①】

高橋 あらすじをまとめるために、まず主語をたしかめよう。

田中 ①「起こしてもなかなか起きない。」という文があるけど、主語が書かれていないよ。主語はだれかな。

山下 ② 述語から考えると、この文の主語は、だよ。

高橋 ③「お母さんは、いんきよのおじいさんに相談した。」という文では、主語は、だよ。

田中 ③「だから、「明くる朝、電話のベルが鳴った。ひろしは、その音で目を覚ました。」と話が続くよね。

田中 のところの話は、どのようにまとめればいいかな。

山下 そこは、「ひろしが、場面」とまとめればいいよね。

（話し合いが続く）

(1) ア、イに入る主語を書きましょう。

(2) ウは、山下さんがの部分で、場面という言葉を使ってまとめた内容が入ります。

ウに入る言葉を十五字以上、三十字以内で書きましょう。

二 線部③の「目を覚ます」を国語辞典で調べると「ねむっているじょうたいからさめる」という意味の慣用句でした。辞典の同じペ

ージに「きよりがとても近い」という意味の「目と鼻の先」という慣用句があります。その使い方例として最もふさわしいものを、次の1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 この花を見るとおばあさんの笑顔が、目と鼻の先にある。
- 2 友達の家は、ここから目と鼻の先にある。
- 3 サッカーの試合は、目と鼻の先の日曜日にある。

三 【話し合い①】に続いて、高橋さんたちは、好きな場面について話し合っています。その様子を表した【話し合い②】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合い②】

高橋 わたしは、ひろしが「あんまりおいしいので、いんきよのいじわるじいさんに、持って行ってやるのさ。」というところが好きだよ。理由は、「いじわるじいさんめ。」と言っていたひろしのおじいさんへの気持ちが変わったことがわかるからだよ。

田中 おじいさんのことをめんどろだと思ふ気持ちは、なくなっているよね。

山下 ひろしは、おじいさんのおかげで早起きをすることができて、おいしいさくらんぼを食べることができたと思っているよね。

高橋 そうだね。ひろしは、おじいさんに対して、感しやの気持ちをもつようになったと思うよ。

田中 他にも、エ という行動や、オ という会話から、ひろしがおじいさんに感しやの気持ちをもつようになったことがわかるよ。

（話し合いが続く）

- (1) エ にあてはまるものを「ぼうしいっぱいのさくらんぼ」の……線部AからDまでの中から一つ選んで答えましょう。

- (2) 「ぼうしいっぱいのさくらんぼ」の会話文の中から オ に入る言葉をぬき出しましょう。